

おのゝり上野の御書

シキキの長子孫

みら雲の心御の軒

と又ならハ心御の

下

おのゝり上野の御書

尊園片親五里鏡

子之兼年大の文字

道勤此の通道の鏡

おのゝり上野の御書

上兼年大の文字

の書おのゝり上野の御書



一、  
...

の書は、  
...

字の、  
...

ら、  
...

~~...~~

の、  
...

の、  
...

身、  
...

石、  
...

字、  
...

其、  
...

一、  
...

の、  
...

其、  
...

り、  
...

の、  
...



う未だ知らずの<sup>り</sup>海安

の物但速く傳信の中

なる<sup>る</sup>一但<sup>り</sup>る<sup>る</sup>傳信

一説にたは<sup>る</sup>由法<sup>を</sup>た

の<sup>り</sup>幅<sup>を</sup>し<sup>る</sup>書

天<sup>の</sup>海<sup>を</sup>少<sup>く</sup>海<sup>を</sup>

然たり大観<sup>を</sup>後<sup>の</sup>

東<sup>の</sup>海<sup>を</sup>幅<sup>を</sup>傳信

中の海<sup>を</sup>伝<sup>を</sup>一

○<sup>り</sup>支<sup>の</sup>人<sup>の</sup>書<sup>を</sup>の<sup>り</sup>海<sup>を</sup>東

毎<sup>の</sup>年<sup>を</sup>書<sup>を</sup>海<sup>を</sup>右

は出<sup>る</sup>方<sup>を</sup>も<sup>る</sup>海<sup>を</sup>

支<sup>の</sup>款<sup>を</sup>の<sup>り</sup>海<sup>を</sup>院

通<sup>る</sup>



...の...  
...

竟教其の...  
...

通筆自在

洪成、世す中筆

と福、一教廷禪

行字況、方より力

有弊、有善、新、の

我、子、可、善、一、の、及

形、融、向、の、善、法

有、の、善、の、善、の、介

有、善、の、通、由、の、機

有、の、善、美、則、善、矣

他、其、の、善、の、善、の、善

其、定、一、の、善、の、善

其、世、の、善、の、善、の、善



新定一易の序

河内造の書

海集巻道人の書

河内造の書

世依の書

出づ湖村の書

浪浪の書

母媚の書

と能の書

失の書

東葉の書

石の書

事始の書







本居宣長の

用の事一々見る其傳

二文字は如く事の家

のあはれおの事如く處

せふの事

想存中有月七

引くもの心教中古刻

其陰に於て其の河船

とあるのみ其他に

大抵善道身事の事

多し

大橋庵

惟庵

文に於て

一



大抵著書の道は  
多可し

光橋庵

怡庵記

文前云云  
一

文衛山の細子木

世間常々見たり

の古子あらまは  
但去

偽口取れ然世々

遊あそぶあそぶあそぶ  
消あ免あ老あ者あ

神田箱子町果物社  
香川夜香堂



世に...

のふ子あらまの但去

偽口取ん然せ

海心

海心

神田 箱子町 果物社  
香川 夜庵 六



揚軒 平

赤

赤

6月



木堂先生尺牘

特別  
子 6

特別  
# 6  
3890  
196





昭和十年乙亥元月犬養毅侯識

